

6月の例会の報告 (1982.6.19, 明治大に2)

- ① 叶内 敦子 (明大・院): 「東吾妻山・亜高山帯の花粉分析」
- ② 川澄 隆明: 「東ニューギニア高地の水河地形」
- ③ 松本 繁樹 (静岡大): 「霧ヶ峰高原における Wanderblöcke の流動観測と若干の問題」

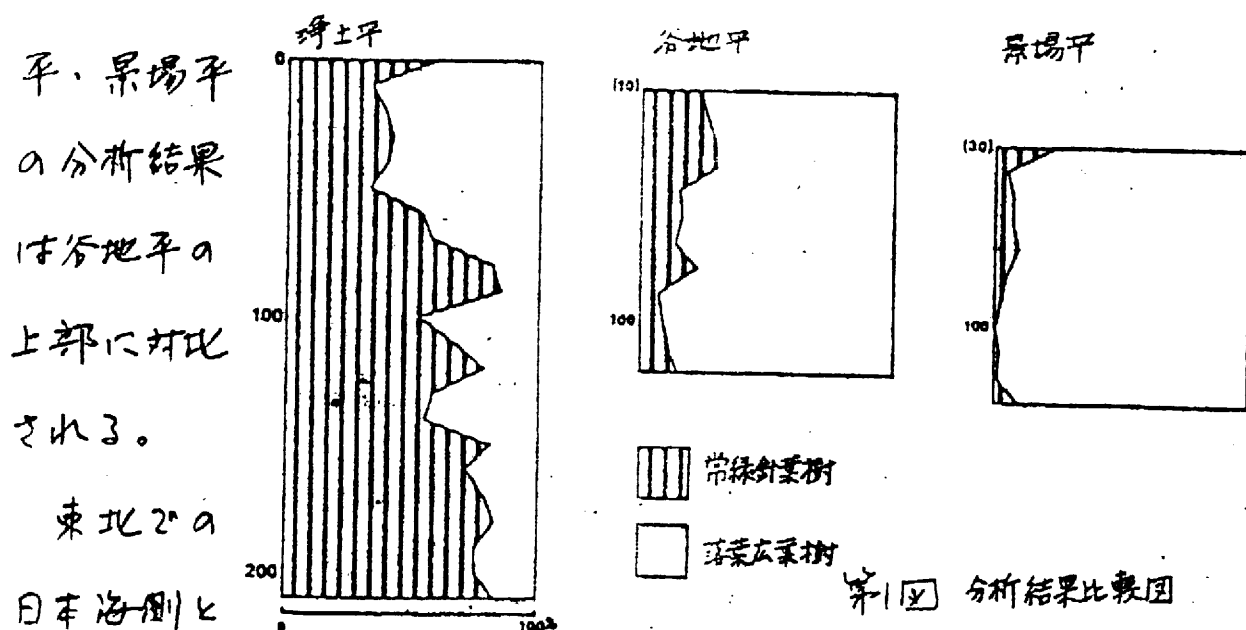
(要旨)

- ① 福島県と山形県の県境に位置する3ヶ所の湿原で泥炭を採取し、花粉分析を行った。

浄土平 (標高約1600m) は、一切經山の火山活動を長く受けた所で現植生はパイオニア群落からなる。谷地平 (約1500m) では、オモリトドマツ、クロバが多く見られ、果場平 (約1700m) では、オモリトドマツ、モウセンゴケが多く見られる。

これらの地点から採取した泥炭の花粉分析の結果、谷地平ではブナが多く、泥炭層形成時はブナ林であったことが考えられ、果場平では下部の粘土層からシダが多数観察され、湿地化が進んでいたと考えられる。また、浄土平は火山活動の影響で他の2地点と比べるとブナが少なく、コヨウマツ、モミが発達していたと考えられる。

谷地平では採取した泥炭層下部にぬまさゆ1932 (5,000y.B.P.) が見られる。浄土平、果場平では絶対年代を知ることはできないが、泥炭の堆積速度を1mm/年として、採取した泥炭が約2000y.B.P. 以降のものであると推定した。すなわち、第1図では、浄土



太平洋側の高山の植生の垂直分布のちがいが多雪化のちがいから考えられるが、そのちがいについて今後明らかにされる必要がある。

② 東ニューギニアのギレエ山およびウイバラム山にみられる氷河地形が多数のスライドによって紹介された。

i) ギレエ山(4368m)南面: 3100mまでのモスフォレストをぬけ、2200m以上に達すると、基盤上に腐植の凸部をもつ、でこぼことしたリリフラクション斜面(傾斜8°)が広がる(全場では氷蝕地形ではないかという声も聞かれた)。さらにこのmoraineをもつギレエ山高度2910mの見事なカーブが見られる。

ii) ウイバラム山(4694m): ヒンデ-パウデ谷沿いに、2つの湖と、湖にみかきrock bar, roches moutonnéesなどの地形が見られ、積線部は、ice capにおおわれていたと考えられる。また、山頂から北西に沿う谷には源頭カーブがあり、非対称谷が見られる。

氷河形成期には、現在同様に北向き成分の卓越風があったことが推定される。

問題点として、氷河地形の対比がされていない（絶対年代？）ことがあけられ、現在氷河の存在する西側のデータの収集が望まれる。

なお、詳しくは毎人の今年の2月号にのせられているので、それを参照のこと。

③ 霧ヶ峰高原の車山、ゴマシオ高原で、昭和44年8月以来の長期間にわたる岩塊の流動観測に関する発表が行われた。

Wanderblockeに就くものとして、1) 斜面傾斜(10°以上で相関がありそう)、2) 岩塊の大きさ(大小の2グループに分けて考えると相関がありそう)、3) Trail・Pillowとの関係(Trailが長いものは移動量が大)、から考察が下された。

霧ヶ峰高原における観測岩塊の年平均移動量

No.2

—1982年5月現在—

観測場所		20mm以上	20~10mm	10~5mm	5mm以下	△	?	計
車山	南斜面(A)	7	3	2	4	7	4	9
	北斜面(B)	2			1	3	1	7
		①	②	①			①	⑤
	北西斜面(C)			②	⑤		①	⑧
ゴマシオ	スキー場斜面(D)				②	③	①	⑥
	ゴマシオ高原(E)					15		15
	ゴマシオ高原(F)			2	1	5		8
計		3	5	7	13	26	4	58

△印は計測誤差の範囲(10mm)を越えていないもの。

○印は計測不能となったものなど。

①印は1976年8月に観測を開始したもの。

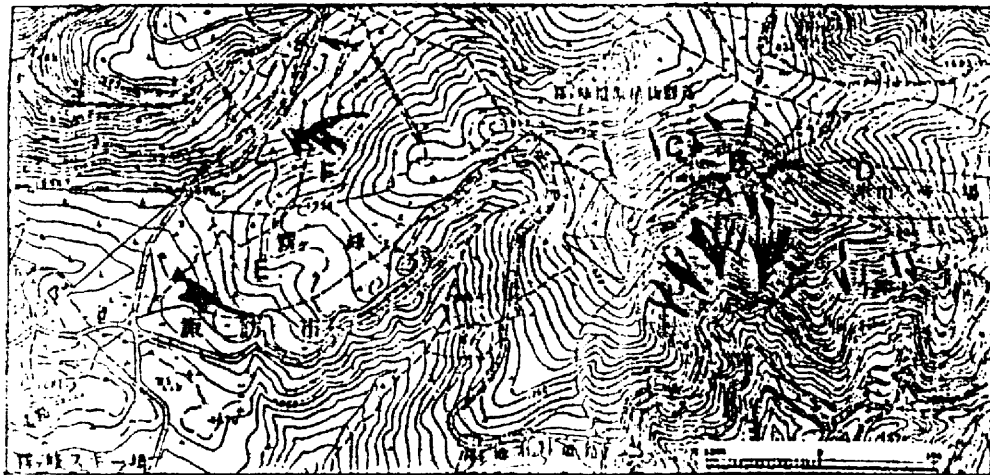


図1 霧ヶ峰高原の地形と岩塊観測地点

図中のA～Fは岩塊の観測場所を示す。また図中で黒く塗りつぶした部分は、浅い谷状地内の通水路を示すが、そこには多くの場合 blockstream 状の岩塊の集積形が見られる。

——7月の別会のお知らせ——

日時: 7月10日(土) 14:00～17:00

場所: 東京学芸大学 新3号館 437教室

国電・武蔵小金井駅下車、北口からの小平団地行きバスにのり、学芸大正門前で降車。(新宿から40～40分)

発表者: 杉田 久志(東大・農学部・院):「上越多雪山地において
針葉樹林帯の欠如する要因」

小野 有五(筑波大):「立山・剣岳周辺の氷河地形、

——サマー・スクール案内——」

事務局より——1) 8月の別会はサマー・スクールのためありません。9月は一回休み、10月は10月11～12日に札幌で日本地理学会があり、10月11日には「寒冷地域の自然地理——過去と現在」というテーマでシンポジウムが行われますし、そのあと、第1回の極地研究委員会が開かれる予定ですので、寒冷地形学研究会の10月の別会はこの研究委員会をもってその代わりとしていと考えてます。多数の参加を希望します。

2) 今年度会費(年間1000円)未納の方は事務局にお支払い下さい。

サマー・スクールについて

今年度のサマー・スクールは、北アルプス・立山周辺で
下記の通り行うこととなりました。宿の予約等のため、
7月10日(必着)までに参加希望者は事務局までお知らせ
下さい。なお、7月の例会に出席される方は、会場でも
申し込みを受けつけます。部分参加も可能です。

日程：8月9日(月)～12日(木)

8/9 午前9時30分室堂ターミナル集合

↓
剣沢→剣沢小屋泊(キャンプ可)

8/10 小屋→剣沢→内蔵助カール→内蔵助山荘泊
→剣岳往復可→ (キャンプ不可)

8/11 山荘→内蔵助カール→山荘泊(★)

8/12 山荘→内蔵助平→黒四ダムにて解散
→立山縦走可→室堂より帰路

*) 東京方面からの足

① 上野発 20:53 急行・越前 4:50 高山 5:23 立山 6:16 室堂 8:35
↓
急行・21:05 4:16
大正 22:10

② 新宿発 23:20 急行・PU*21:55 5:20 信濃 6:30 高山 7:30 立山 8:30 室堂 9:15
↓
急行・21:55 5:20 信濃 6:30 高山 7:30 立山 8:30 室堂 9:15

*) 高山～大町(あるいはその逆)へぬける方は、『PIUペンルート
周遊券(15,500円)』が、大町～立山～大町のオは、『大観
峰ルート周遊券(12,600円+トンネルバス2,000円)』が便利で
す。

③ 片道料金

上野バス
室堂
9:25

(宿) 剣沢小屋(9/9) 素泊 2,800円 (キャンプも可能ですが: 要テント)
 内蔵之助山荘(9/10, 11) // 2,600円×2 (キャンプはできません)

費用: 3万円前後(東京出発, 小屋泊)

案内者: 小野有五(筑波大)・川田邦夫(富山大・交渉中)

持物: 9/9の昼食, 1/25地形図(立山・剣岳・十字峠・黒部湖)

小屋泊・自炊の場合の通常の実山歩きに必要な個人装備(食器を忘れずいこ), 調査用具・ハンマー, クリノメーター, 計水尺, オールドノット等

巡検内容: 室堂周辺の氷河地形と堆積物

- ・剣沢・内蔵之助カール氷河地形と越年雪渓(はまぐり雪, 内蔵之助氷体)
- ・剣沢・内蔵之助カールのプロテラス・ランプート, 周氷河地形
- ・内蔵之助平氷河地形と堆積物

*) 参加希望者は,

剣沢小屋泊希望かキャンプ希望(テントの有無)のいずれかをお知らせ下さい。
 また、自炊に必要な共同装備(コンロ, コックル, 布バケツなど)を、持ってこられるのを要して下さい。

〒305

茨城県新治郡桜村・筑波大学地球科学系・小野有五 気付
 談話会事務局 (Tel. 0298-53-4303) <7/10必着>

参考文献: 岡根 清(1969): 北アルプス剣沢の岩屑土について. 地質学, 42, 2.

(1973): 内蔵之助山谷のProctalus Rampantの形成について. 地質学, 46, 4.

Ono, Y. (1980): Glacial and periglacial geomorphology in Japan. Progress in Phy. Geography, vol. 4, 149-160.

五白沢智也(1979): 鳥瞰図集・日本アルプス. 講談社.

Age x 10 ⁴ y.B.P.	Tephra	Glacial deposits	Volcanic deposits
1	Ah	Younger Moraines (Tateyama Glacial)	Jigokudani Solfataras Deposits
2	AT		
3			
4			
5	DKP	Murodo Gravel (Murodo Glacial)	Mimatsuzaka Lava
6	Epm		Tamadono Lava
7			Raichodai Pumice fall (Raichodai Sand and Gravel)
8			
9			
10	Dpm		Pyroclastic flow of the 2nd Activity of Tateyama Volcano

9日朝堂平
午後5時

100 11/15
- 25/24

110 25/24
- 25/27

120
- 10

→ 西島台砂礫

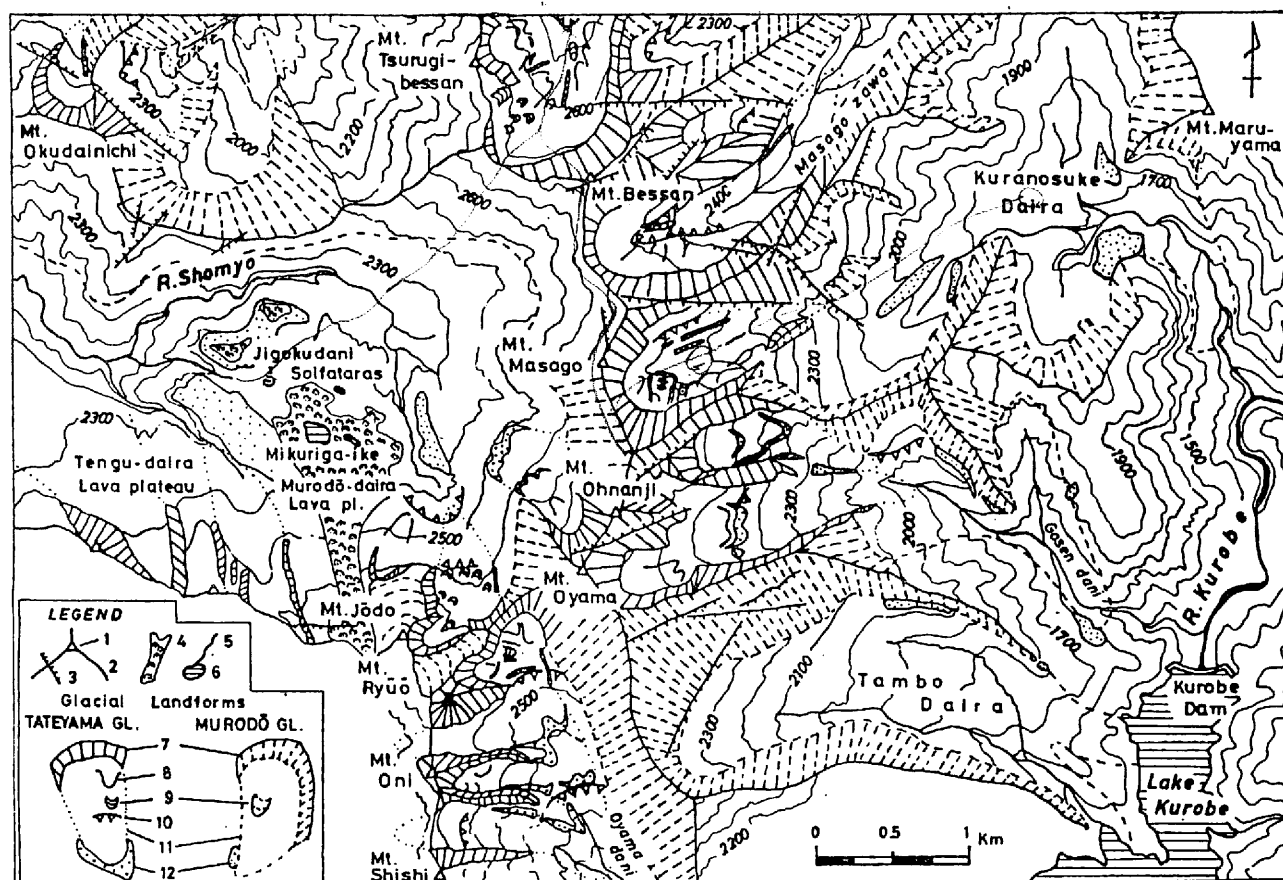


Figure 1 Glacial landforms around Mt. Tateyama (Mt. Oyama, 2992 m and Mt. Ohnanji, 3015 m). 1 peaks, 2 ridges, 3 active faults, 4 Tamadono lava (Fukai, 1974), 5 streams, 6 lake and ponds, 7 glaciated walls including cirque walls, 8 protalus ramparts (nivation moraines), 9 roches moutonnées and smoothed rock surface, 10 steps with or without Riegels, 11 extent of glaciers, 12 moraines